令和3年4月1日発行　第18号

成田剣道連盟だより

発行：成田剣道連盟　広報委員会
Tel ： 0476-42-6294

ホームページに紹介されていますように、成田剣道連盟の連盟旗が出来上がりました。今号は連盟旗の作成にあたられました副会長の斎藤実先生に一言お願いしました。

成田剣道連盟旗について

成田剣道連盟副会長　斎藤　実

長年の懸案事項であった連盟旗がようやく出来上がったので、経過を報告します。

先ず連盟役員の中から制作委員を選任し、会員から図案を募集したところかなりの応募がありましたが、これだというものがありませんでした。

次に美術教師の渡辺裕幸先生（剣道六段）に依頼しました。渡辺先生から提出された図案をもとに検討することになりました。

検討するにあたって対案も必要だということになり私も提案しました。

渡辺先生の図案は具象的、私の図案は抽象的なものでした。役員による何度かの検討の結果なぜか私の図案が採用された次第です。

図案内容

大きな〇は剣道を、小さな〇は成田市、富里市、印西市、白井市、栄町の5地区を示しており、各地区が剣道を通じて連繋していることを表現しています。

また〇は「循環無端」ということで、成田剣道連盟は永遠に続くことを意味しています。

さらに、「交剣知愛」とは剣道を通じて友情を深め、相手を敬い、自己を高めることです。

「交剣知愛」と「成田剣道連盟」の文字は三橋章二先生（教士剣道七段）に揮毫していただきました。

以上の通りです。成田剣道連盟の発展を祈念いたします。



（写真は連盟旗と揮毫された三橋先生（左）です。）

令和3年1月31日に県武道場にて開催された千葉県剣道選手権大会において成田剣道連盟の吉武礼絵さんと中野美里さん（ともに順天堂大学剣道部所属）が、それぞれ優勝と第三位になりました。

お二人は3月13日、14日の両日にわたって長野県で行われた第68回全日本女子剣道選手権大会に千葉県代表として出場されました。

お二人を代表して吉武礼絵さんに一筆お願いいたしました。

全日本女子剣道選手権大会

順天堂大学　吉武礼絵



福岡県筑紫台高等学校出身、順天堂大学4年の吉武礼絵です。

先日、3月14日に長野県で行われた第59回全日本女子剣道大会に千葉県代表として出場しました。私は、高校時まで福岡で生活していたので九州の人と剣を交えることが多かったのですが、大学で関東に上京してきて今までとは違う環境で剣を交え練習を行ってきました。

今回の大会は、コロナの影響で大会がすべてなくなり、また、例年通りに練習ができない状況で開催されました。今までとは違い、マスクの着用や人数制限などの感染対策をしながらの練習を行う日々でした。

また、大学の大会が亡くなった為、練習内容は体づくりのために、打ち込みを中心とした練習を行ってきました。



私は、12月に千葉県予選に出場することが決まり、その日から優勝して全日本に出るという気持ちで大会まで稽古に励んできました。また、成田剣道連盟の稽古会にも数回参加させていただいて、諸先生方の指導を頂いたのが、千葉県予選で優勝することに繋がり、全日本女子選手権の切符を掴み取ることができたと思います。

全日本女子選手権では、一回戦負けをしてしまい改めて全国で勝つことの難しさを痛感すると同時に、県代表の選手の試合を見て多くのことを学びました。

コロナ禍でこのような状況がまだまだ続くとは思いますが、当たり前に練習ができることに感謝し、全日本女子選手権大会に出場しリベンジできるよう日々精進して参ります。

令和2年11月に東京（八王子）にて行われた審査会で成田市の鈴木和幸氏と印西市の菅原浩氏が六段位に昇段されました。おめでとうございます。昇段されたお二人に一筆寄せていただきました。

六段昇段に思う　　成田市　加良部剣道愛好会　鈴木　和幸



昨年１１月、八王子で開催された審査会で昇段することが出来ました。平素からお世話になっている加良部剣道愛好会の先生方、講習会等でご指導いただいた成田剣道連盟の諸先生方に深く感謝申し上げます。

私が高校生以来の昇段審査を受ける契機は警察官として勤務していた平成１８年に警察庁に出向した際、各都道府県警察の剣道特別訓練員の先生方との稽古で剣道のすばらしさを再認識するに至り、加良部剣道愛好会に入会させて頂きました。入会当初の私の剣道は勝つことを主眼としたもので、自分勝手に「打ちたい時打つ軍鶏の喧嘩剣道」でした。

こうした剣道では四段審査など受かるはずもなく、三回目でやっと受かった次第です。

審査会に臨むに当たり心掛けていたことは当会の多田先生の教えである

① 相手を引き出してから打ち切ること。

具体的には、「さあ打って、下さい」との相手を包み込む姿勢を示し、出頭をとらえること。

② 打たれて感謝、稽古の出来が全て、稽古で出来ないことは試合等で出来ない。

③ 素振り等の平素の基礎稽古の大切さ。

一日千本の素振りの実行。本来は名古屋での審査会を受審予定でしたが、コロナで延期、半年分多くなりました。

等を実践しました。その教えから五段、六段と一度で合格することが出来ました。

会場の八王子には、長男家族がおり、前日宿泊して会場の下見、孫娘と家焼き肉で盛りあがり審査に臨みました。

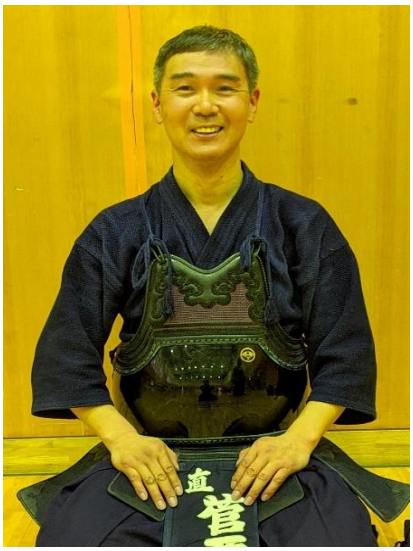
当日は、早朝から長男の自宅付近の河原での素振り等で一汗流して会場入りしました。

会場では、対戦する剣友を見て「この中で毎日千本素振りをしている剣友は何人いるだろうか」と思うと何か妙に落ち着いたことを思い出します。

昇段して感じることは、教え子と共に汗を流してきたことが励みになったことに感謝しておりますし、今後とも剣道を通じての縁を大切な宝物として精進していきたいと思います。

六段昇段までの思い、稽古など

印西市　直心剣友会　菅原　浩



令和2年11月22日、東京八王子で実施された六段審査に臨み、4回目の挑戦にして合格を果たすことができました。

日頃よりご指導下さる諸先生方や剣友会の皆様に深くお礼申し上げます。

コロナ禍で自粛の中、剣道が出来たのも場所・時間を用意して下さった剣友会の仲間や子供たち及び保護者の方々の協力あっての事です。

そして佐倉西高校の剣道場を早朝から解放して頂いた河田先生に厚く感謝いたします。

昨年は緊急事態宣言に戸惑い、ネガティブなインパクトを受けておりました。学校や企業活動が抑えられた関係で体育館等の施設が利用できず3か月間は「稽古できない苦しみ」を経験しました。

6月になると全日本剣道連盟の感染予防ガイドラインが制定され稽古再開となりましたが、面マスクを着用し、無発声で稽古した違和感は今でも忘れません。

この度の審査では課題を3つ揚げました。

① 落ち着くこと
② 肩の力を抜くこと
③ 攻めて崩して、打ち抜けて残心をとること

私は審査が午後からでしたので佐倉で早朝稽古に参加してから八王子へ移動しました。

この稽古が良い結果へ繋がったと思います。

会場では密を避ける形で準備され、感染対策が徹底されており、審査会関係者の開催に向けたご尽力に敬意を表させていただきます。

審査は、素振りなどで体を解す時間もなく、静かに突然始まりましたが、私は朝稽古の甲斐もあり焦らず立ち会うことがで出来ました。

二人の相手には、面と返し胴が決まったと思います。結果「合格」を頂きました。

コロナ禍において不便な状況が続きますが、行動を律し、コロナ終息後の稽古をわくわくしながら「その時」を待ちたいと思います。

編集後記

今しか撮れないマスク着用の稽古風景とマスク顔の集合写真を載せてみました。





そして、こういう写真が今しか撮れないことを願っています。

広報委員長　武藤輝久男　　広報委員　菅原信夫　　鈴木三佳